

あす、31日「の日」 県内ウナギ稚魚豊漁大新の関連会社が運営する志布志養鰻場。来
年以降に出荷されるウナギを育成中だ
17日、志布志市

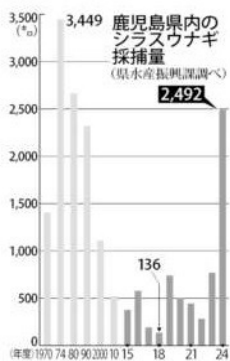
19、31日の「土用の丑の日」を前に、鹿児島県内でもウナギ商戦が本格化している。全国的なシラスウナギ（ニホンウナギの稚魚）の豊漁で値下がりが見られる中、成育には一定程度の時間がかかるため今夏は前年並みとなりそうだ。人工種苗生産の研究も進み、今後は手頃に楽しめそうに思えるが、高騰が続く養殖費用などに加え、輸入ウナギを規制する動きもあり、先行きは見通せない。

店頭価格は前年並み

鹿児島市の「うなぎの末よし」では、記録的な高値だった2023年同期と比べ、直近の仕入価格は500円ほど安い1万4930円。ただ、うなぎに欠かせないコメの高騰もあり、利益率は前年以下にとどまる。客離れを懸念し、店頭価格は据え置いている。

「仕入れ値は若干下落したけどコメ価格は倍以上」と嘆くのは、「うなぎのふじ井」（同市）の藤井滋人社長（41）。1月に値上げしたばかりで、今はおかわり回数を制限したり、メニューを増やしたりと工夫する。人件

養殖費高騰、先行き不透明



鹿児島県内のシラスウナギ採捕量(県水産振興課調べ)

費も上がっており「高止まりは続く」と。県水産振興課によると、県内の24年度漁期のシラスウナギ採捕量は2・5万と35年ぶりの高水準。一時は取引価格相場が1万2300円から10万円ほど下がった。県内では1年以上育った「周年養殖」が主流のため、担当者は「安い稚魚の出荷は来年から本格化するだろう」とみる。

豊漁を受け、養鰻業の鹿児島県（大崎町）の斎藤裕仁社長（36）は「仕入れは順調」と明かす。現稚魚の安定供給に向

出荷するウナギは、23年に仕入れた稚魚価格が反映されるため、「相場は秋口から緩やかに下落するのでは」と分析する。ただ、養鰻池の温度を保つための重油をはじめ、電気代や飼料代などは軒並み高騰しており、養鰻業の経営は厳しくなっている。

関連会社が養鰻場を運営するウナギ加工販売業の二ホンウナギの貿易を規制するよう提案した。11月12月のワントン条約締約国会議で採択されれば、輸入制限により稚魚やかは焼きの価格が高騰するリスクがある。

日本のウナギの国内供給量約6万3千頭のうち7割は輸入が占める。稚魚も大半を輸入に頼っており、養殖生産量日本一を誇る鹿児島でも、採捕分だけでは必要量を賄えていない。関係者は「規制されれば経営が成り立たない」と危機感を募らせる。

【問1】梅雨が明けるころ、精が付くウナギを食べるとよいとされる風習のある日を何と言いますか。見出しの空欄にあてはまる漢字3字を答えてみましょう。

() の日

【問2】ウナギ料理を提供する飲食店でウナギの仕入れ価格が下がっても利益率が上がらないのはなぜですか。

()

()

【問3】養殖ウナギの稚魚であるシラスウナギは、鹿児島県内で2024年度に前年度のおよそ何倍採捕できましたか。棒グラフを見て計算し、次のア～エから答えを選びましょう。

ア.2倍 イ.3倍 ウ.4倍 エ.5倍 ()

【問4】ウナギの稚魚が豊漁にもかかわらず、養鰻業の経営が厳しいのはなぜですか。

()

【問5】稚魚やかば焼きの価格が高騰するリスクがあります。それはなぜですか。日本のウナギの国内供給量の7割を輸入が占めていることを踏まえ、ニホンウナギの生息状況と国際的ルール観点から説明しましょう。

()

【調べてみよう】鹿児島県では、ウナギ以外にもどのような養殖業が盛んですか。それらについても、直面している課題や発展のための工夫などについて調べてみよう。



＊習っていない漢字とむずかしい言葉の解説

土用（ど・よう）丑（うし）の日＝土用は立夏・立秋・立冬・立春の前のそれ	養鰻業（よう・まん・ぎょう）＝うなぎを養殖する事業。
それ１８日間。特に、夏の「土用の丑の日」にはウナギを食べる習わしがある。	余裕（よ・ゆう）＝必要量より多いこと。ゆったり落ち着いていること。ゆとり。
稚魚（ち・ぎょ）＝卵からかえったばかりの魚。	人工種苗（じん・こう・しゅ・びょう）＝養殖や漁獲された親魚から、人間の
手頃（て・ごろ）＝自分の力などに合っている様子。適当。	管理下で人工的に生産された魚介類の稚魚や幼生のこと。
高騰（こう・とう）＝物の値段が急に上がる事。	絶滅（ぜつ・めつ）＝すっかりほろびて、なくなること。また、なくすこと。
養殖（よう・しょく）＝魚・貝・海藻（かい・そう）などを人工的に育て、増や	恐（おそ）れ。
すこと。客離（きゃく・ばな）れ	締約（てい・やく）＝契約または条約を結ぶこと。締約国＝条約を結んだ国。
懸念（け・ねん）＝気がかり、心配。据（す）え置いて	占（し）める＝自分のものとする。ある割合を取る。ある位置を取る。
嘆（なげ）く＝悲しさや苦しさを口にする事。	誇（ほこ）る＝自慢する、得意になる。名誉だと思う。
振興（しん・こう）鰻（うなぎ）緩（ゆる）やか＝動きがゆっくりな様子	採捕（さい・ほ）＝動植物を採取または捕獲すること、捕らえること。
分析（ぶん・せき）＝物事を細かく分けて、成り立ちなどを調べる事。	募（つの）らせる＝感情や思いが次第に強くなる、増していく様子を表す。特に
軒並（のき・な）み＝どれもこれもすべて。	時間がたつにつれて、または特定の状況下で感情が高まることを指す。